学校だより

アビラ

第 54 号

平成 27(2015)年 1 月 21 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像　よく考える子　思いやりのある子　進んでやりぬく子　強くたくましい子　日本もベネズエラもよく知る子

今回お伝えしたいのは、四つのほんのり甘い話です。一つめはスイートポテトの話、二つめは舞台練習の話、三つめは休み時間の話、そして、四つめは紅白幕の話です。

◆◆◆収穫したお芋でスイートポテト作り◆◆◆

１月 19 日（月）に，１週間前に収穫したお芋で，１年生３人がスイートポテト作りに挑戦しました。担任の先生と一緒に，甘くなあれ，美味しくなあれという願いを込めて，全校の教員やお友達の分まで作ってくれました。**ほんのり甘い**スイートポテトを皆でいただきました。

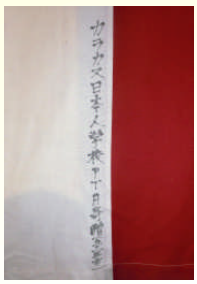
◆◆◆みんなが主役の学習発表会◆◆◆

来週末に迫った学習発表会に向けて，舞台練習も本格的にスタートしました。全校児童６名全員が主役の学習発表会ですから，その練習も大変です。和太鼓，全校西語劇，合唱，合奏，学習発表。６月の運動会同様，当日子どもたちは素晴らしいパフォーマンスを見せてくれると思います。厳しさの中にも**ほんのり甘い**，毎日の練習です。

◆◆◆休み時間にも国際交流が…◆◆◆

休み時間になると，子どもたちに警備員も加わって野球の国際親善試合が始まります。**ほんのり甘い**雰囲気です。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…（その４５）

「学校沿革史」が見せてくれる美しい風景の数々…その 12　　ほんのり甘い スイート・メモリー

学習発表会まであと２週間足らずとなりました。舞台設営が終わり、舞台を使っての練習も始まっています。ふと舞台の横の紅白幕に目をやると、「カラカス日本人学校ＰＴＡ寄贈（昭和五十一年度）」の文字がとびこんできます。昭和 51 年というと、1976 年です。その前年の 11 月 1 日が学校の創立ですから、その次の年に、ＰＴＡから寄贈されています。この寄贈というのも、以前紹介しましたように、購入して寄贈したものではなく、手作りの逸品なのです。当時の橋本教頭先生が創立 10 周年記念誌にその様子を書かれています。「…幕の一張り一張りの縫いしろを見てください。手縫いもあれば、ミシンをかけた所もある紅白幕。しかし、出来栄えは最上級の逸品です。それもそのはず、生地の購入から手分けして各自が家庭で縫い上げ、それを再び学校に持ち寄って縫合作業がなされたのです。『あら、これは裏かしら…。』教室の片隅から聞こえてくるお母さん方の話し声と笑いの中での作業…。こうして、紅白幕は初期のＰＴＡのお母さん方の『労作の賜』として、カラカス日本人学校に残されています。…」この紅白幕は、1976 年の卒業式や入学式で早速使われました。それから、約 40 年経った今も、体育館に堂々と飾られています。大切に大切に守り続けられた紅白幕、40 周年記念式典でも有り難く使わせていただきます。感謝と尊敬の心をもって…。（写真左より：①舞台練習を見守る紅白幕 ②紅白幕の白生地に「ＰＴＡ寄贈（昭和 51 年度）」の文字がくっきりと残っています　③この紅白幕はあらゆる場面で使われました。平成元年の収穫祭の写真が残されていますが、そこにも紅白幕がバックに写っています。長い歴史の「生き証人」みたいです）